

PRAEVIDENTIA DAILY (1月8日)

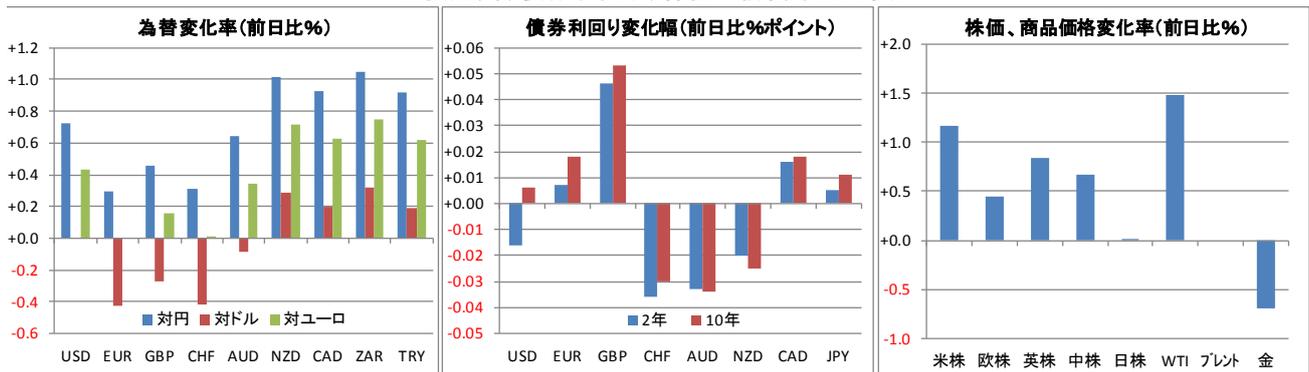
昨日までの世界：原油安が一服

昨日は、原油価格が欧州時間に続落したがその後反発したことや、米ADP民間雇用統計が+24.1万人と前月および市場予想（各々+22.7万人、+22.6万人）を若干ながら上回ったことから、（米中長期債利回りは然程上がらなかったが）米株価が反発して引けたため、ドル/円も118円台前半から一時119.64円へ反発した。その後、米FOMC議事要旨発表にかけては再びドル安となり、一時119円割れの局面もみられたが、議事要旨にドル売りを促すような要素はなく、最終的には119円台を回復して引けている。議事要旨では全体的にサプライズはなかったが、原油安やドル高の物価への影響は一時的で、コアインフレが現状近くで推移しても利上げ開始の可能性があると指摘するなど、どちらかというところタカ派的な内容が目立ちドル下支え要因だった印象だ。

ユーロは、ユーロ圏HICPが前年比-0.2%とマイナス化し、市場予想を下回ったことから、ある程度は想定通りだったが続落、一時1.1800ドル丁度へ下落した。因みに、昨日発表された1月25日のギリシャ総選挙に関する直近の世論調査(Alco)では、Tsipras氏率いる野党急進左派連合(SYRIZA)が33.8%、Samaras首相率いる与党新民主主義党(ND)が30.5%と、SYRIZAが依然優勢だがNDとの差が縮まってきているようだが、予断を許さない状況が続いている。

豪ドル、NZドルは、米ADP民間雇用統計の予想比上振れを受けた米ドル高により、対米ドルで一時下落する局面がみられたが、NY時間引けにかけては買い戻され、いずれも前日比プラス圏で引けた。カナダドルは原油反発もあって対米ドルで反発したが小幅に留まっている。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：原油次第の展開が続く

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑ ?

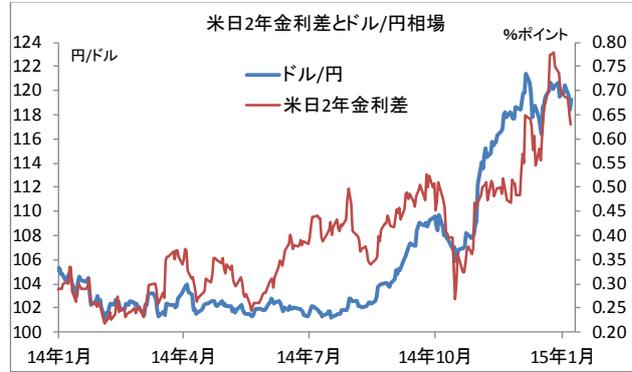
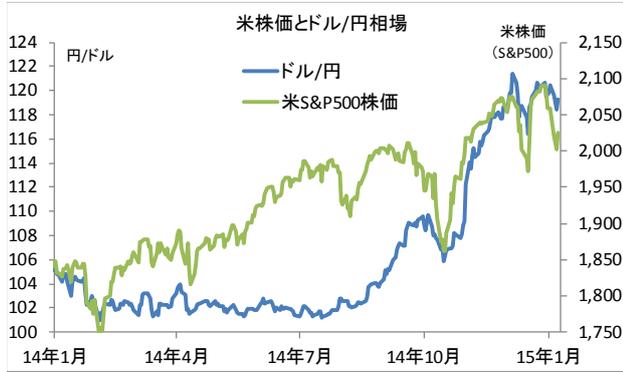
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Evans シカゴ連銀総裁発言	8 : 30			ハト派、投票権あり
豪 11 月建設許可件数	9 : 30	+11.4%		
トルコ 11 月鉱工業生産・前年比	17 : 00	+2.37%		
英 BoE 金融政策決定・政策金利	21 : 00	0.5%	0.5%	
米新規失業保険申請件数	22 : 30	29.8 万件	29.0 万件	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は材料が少ないこともあって、ドル/円は引き続き原油価格と日米株価動向を睨んで上下する展開となりそう。原油価格が短期的にせよ下げ止まり、米株価の反発基調が続けば、ドル/円は底固めの展開となろうが、原油価格は依然として20ドル台/バレルへの下落リスクが払拭されておらず、上下両睨みで臨む必要がある。

米株価との連動性が高まっているドル/円は、原油安の影響から下落している米株価に引きずられ下落しており、株安の程度からすれば更なるドル安円高があってもおかしくなかった。もっとも、よりファンダメンタルズ面

での結びつきが強い米日2年金利差との関連では、米利回り低下が比較的限定的だったこともあり、金利差縮小に概ね見合った調整だった（下図を参照）。米国では原油安などにより総合だけでなくコアインフレも低下しているが（コアPCEデフレーターは直近+1.1%）、Fed高官は原油安のインフレ低下圧力は限定的・むしろ原油安の景気刺激効果の大きさを強調しており、昨日発表の議事要旨でも概ね同様の認識が示されたこともあって、原油安・株安は米利上げ期待の後退にあまり繋がっておらず、米金利上昇とドル高シナリオ自体はまだ崩れていないとみていいだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641